

**〔鹿島厚生病院併設「介護老人保健施設 厚寿苑」新設事業〕**  
**「復興への期待に応える星に」**  
**厚寿苑の新設工事起工式が行われました**

1月31日、公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団）「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」の第5次助成先の一つである福島県厚生農業協同組合連合会（以下、福島厚生連）は、平成25年11月の完成を目指す「介護老人保健施設 厚寿苑」の起工式を執り行いました。

南相馬市は福島県浜通り地区の北東部に位置し、水産業、農業のみならず、「相馬野馬追」や日本有数のサーフスポットとして知られる豊かな観光資源に恵まれた地域です。しかし、東日本大震災による津波被害および原発事故で、第一原子力発電所から30kmの範囲の一部地域が警戒区域や緊急時避難準備区域に指定され、指定外地域の中心部に位置する鹿島区は多くの被災者の避難地域となりました。そのため鹿島区の人口は高齢者を中心に震災前から約2000名増加した一方、病院は16施設から9施設へ、老健施設も8施設から4施設へと減少し、相双地域全体の医療・介護環境が悪化、特に老健施設等の介護施設の大幅な不足が深刻な問題になっています。

そこで、鹿島厚生病院および併設の「介護老人保健施設 厚寿苑」を運営する福島厚生連は、現在の58床から100床に、通所リハビリテーションの定員も1日20人から40人の2倍に施設の拡充を計画し、助成金の申請を行いました。ヤマト福祉財団では、平成24年4月に南相馬市および相双地域の地域医療・介護サービスを地域復興の大きな礎と考え、この事業に10億円の助成を決定しました。

起工式で福島厚生連の庄條徳一経営管理委員会会長は「本工事の完成により、地域に不足している介護、福祉の需要への対応はもとより、高齢化対策を含めた包括的医療、介護を提供できると確信しています」と挨拶。来賓の櫻井勝延南相馬市長は「形に見える復興がなによりも心の支えです。みなさんが待ち望んでいる介護施設が復興への期待に応える星となっていくと思います」と挨拶されました。



**〔新施設の概要〕**

- 建物：鉄筋コンクリート造、地上3階建て
- 敷地面積：2992.27㎡ ●延べ床面積：3647.17㎡ ●収容人員：病床数／100床、通所リハビリテーション／40人（2単位）
- 施設には居室、機能訓練施設のほかに地域の方が集まれる地域交流スペースも併設されます



「地域の強い要望に応える施設に」と庄條経営管理委員会会長



「南相馬市の復興が一日でも一歩でも進むことを心から願い、全身全霊で取り組んでいきます」と、櫻井勝延南相馬市長



地鎮の儀で鍬入れを行う有富理事長